

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 - 舞鶴)

事業所番号	0691600043		
法人名	株式会社 ユニバーサル山形		
事業所名	グループホーム つばさ原町		
所在地	天童市大字原町145-1		
自己評価作成日	平成27年 1月26日	開設年月日	平成26年 3月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

天童市内の公園の北側に緑豊かな環境に位置し、また近くにショッピングセンターもあり気軽に買い物等に出掛けられます。小規模多機能と併設しており、その利用者とも気軽に交流があり、一緒に行事を行うなど楽しく生活しています。そうした環境の中で開設時に掲げた理念を元にながら利用者の方々から『明るく・楽しく・笑って』過ごせるように日々取り組んでいます。また、系列事業所の理学療法士等が週2回程訪問してくれ利用者の心身機能の評価やリハビリを行っています。ADL自立されている方とADL低下が見られる方と混在しておりますが一人ひとりのペースで元気に楽しく過ごしていただけるように支援していきたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3-10		
訪問調査日	平成 27年 2月 17日	評価結果決定日	平成 27年 3月 5日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年、県総合運動公園に近い閑静な一角に、地域密着型介護施設として、1階には小規模多機能事業所が、2階には2ユニットを有する当グループホームが開設された。設立の準備段階から話し合いを通して理念を考え、現在はその実現のため、管理者をはじめとして職員全員が試行錯誤を繰り返し、努力、工夫して取り組んでいる。特に、理学療法をとり入れたリハビリの実施による身体能力の維持や地域との積極的な交流などソフト面の充実ばかりでなく、ウオーターベッド、足湯、ガスエアコンの導入などハード面でも特筆すべき事項が多く、将来が期待されるグループホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所が目指すべき理念を掲げ、日々の業務に励み続ける。地域密着型の特性を活かしながら、家庭的な雰囲気の中でその人らしい生活ができるように日々取り組んでいる。	理念は、地域密着型事業所開設の準備に携わった職員全員で考えたもので、事務所の見え易い場所に掲示され、いつでも意識できるようにしている。地域との交流を大切に、家庭的な雰囲気の中で『明るく、楽しく、笑って』、『その人らしい生活』ができることを目指し、実践にどのように展開するかを考え取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に所属し、地域の活動などにも参加するように心掛けている。しかしまだまだ日常的な交流までには至っていない為、今後地域の活動や行事への参加をはじめ日々の交流の機会も持てるように努めて行きたい。	町内会に入り、班長会にも出席し、来年から総会にも参加することとしている。職員は草むしりの奉仕活動に参加したり、神輿祭りには駐車場を提供して地域とのつながりを大切に考えている。地域の小学校児童の見学の受け入れたり、学校の学習発表会に招待されたり、また、地区文化祭にも声が掛かり出かけている。そのほかボランティアの訪問もあり、さまざまな形で地域との交流が始まっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的にホームページやブログを通し情報を発信している。広報誌の作成も来年度から行う予定をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で町内会長や民生委員、地域包括支援センターの方々にサービスに対する助言を頂いている。その内容について検討しサービスの向上に取り組んでいる。	町内会長、民生委員、市職員、包括職員等が参加して2ヶ月に1回開かれている。会議では、事業所の説明や報告を行い、参加者からは、開設初年度ということもあり、事業所の内容や利用方法等について数多く質問される。平日の日中開催のため、まだ家族の参加が得られず、管理者は、会議の開催や進め方、家族の参加への働きかけなどを工夫し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加の他にも、事業所の基準、設備や運営についての助言を頂くなどしている。施設近所の利用者についての情報提供を受けたり、対応後の報告など行っている。来年度より介護相談員の受け入れも行う予定をしている。	開設初年度であることから、市役所からは事業所の基準、運営等について助言をもらったり、また、利用者の受け入れなどについての情報交換など積極的に協力関係を築くようにしている。来年度から介護相談員の訪問を受け入れ、利用者と市役所とのパイプ役になっていただく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	事業所が2階部分にあり基本的にエレベーターでの移動になっているが、自由に行き来が出来るようにしている。階段での移動を行う方もおり転倒防止の為に見守り等を強化するなどし安全確保をしている。身体拘束に関しての理解という点ではまだまだ不足している部分も多いので研修・学習会の機会を作りながらスタッフ一人ひとりの知識向上に取り組んでいきたい。	身体拘束に関するマニュアルはいつでも閲覧できるようになっている。職員は拘束の具体的な行為やその弊害についてよく理解している。ユニット会議やミーティングで、事例をもとに話し合い、ベッドからの転落が予測される場合は床にマットを敷くことや、外出したがる人の行動パターンの確認など、身体拘束をしないで過ごす工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用前の情報収集に努めると共に利用開始してからは利用者の発言や身体観察など行いながら常に注意し虐待防止、発生防止に努めている。事業所としては言葉遣いや行動などスタッフ同士で注意したり会議などで話し合いをしている。学習の機会が少ない為、事例や対応などをもう少し学ぶ機会が必要。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度利用が必要な利用者に関しては包括支援センターの担当者と連携を図りながら必要な対応をおこなった。しかし制度理解についての学習/研修会などもあまり出来ていないのでそうした機会を持つ必要はある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をとり説明を行うようにしている。利用料金や緊急時の協力要請、契約解除等について、詳しく説明し同意を得ている。入院や受診時の対応など個別の事案があった場合に再度説明に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者との会話や態度から本人の思いを受け止められるように努力している。また家族の面会時に近況の報告をし、意見や相談を伺っている。また、意見箱などを設置して大勢の方に意見を聞ける環境整備も必要と思っている。	玄関に小規模多機能部門と共用の意見箱が設置されている。家族とのコミュニケーションについては、面会時や電話で意見交換をしたり、また、月に1回、写真付きのおたよりを作成してそれぞれの家庭に郵送して状況を伝えたりしている。それに感想を寄せてくれる家族もいるし、また、中庭での畑作り、プランターでの花作りに、自主的に協力してくれた家族もいる。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の状況の変化に対応する為、月に1回の会議のほか、毎日の朝のミーティング、随時の話し合いの場を設け管理者と職員が意見交換出来るようにしている。職員個々との面談の実施するなどの対応も必要		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や日々の会話の中で職員の希望を聞き活かす様にしている。又、介護福祉士や介護支援専門員の資格取得を推奨し、各自が向上心を持って働ける環境整備に努めている。今後、個別面談や社内アンケートなど実施し左記の内容に沿えるように努めていきたい。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や社内研修の機会を設けながら技術や知識の向上に努めている。研修報告などの機会をうまく取れていないため、そうした機会や研修内容の回覧なども実施していくように努めて行きたい。また、個別の力量にあった指導方法なども計画的に行っていけるようにしたい。	法人系列事業所や関連団体主催の研修など、内部・外部を問わず職員を研修へ参加させ、出席した職員はミーティング等で報告して知識情報の共有化を図っている。グループホームでの勤務が初めての職員もいるので、高いサービスレベルを目指しての研修が課題と考えている。	事業所全体の研修計画を作成するとともに、経験や習熟度の段階に応じた知識・技術のスキルアップのため、個人毎の研修計画を作成するなど、職場内での具体的な取り組みについて期待したい。
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH連絡会主催の研修や交換研修に参加し他事業所の方とも意見交換する機会を持っている。また、天童市内の事業所連絡会に参加するなど地域のネットワーク作りに努めている。	日本グループホーム協会山形支部、山形県グループホーム連絡協議会に加盟し、意見交換や交換研修に参加することでネットワークを築き、そこで得た知識を日々のサービスに活かしている。また市内介護事業所連絡会に出席し交流をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との事前面接を行い、生活歴や心身の状況を確認しニーズの理解に努めることで信頼関係が築けるように努めている。本人の以前の環境、家族関係、身体状態などを事前に把握すると共に、本人の話をお聞きしながら困っている事や不安に思っていることを把握するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前説明や契約時に家族の意向や希望、要望について記入して頂いたり、事前面接に同席して頂き、本人様の意向や要望についても理解する事で、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及びご家族より状況を確認し改善に向けた支援の提案、相談にのるようになっている。また、本人、ご家族の話を伺い、何に一番気持ちが向いているのか考えながら対応するようになっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様を人生の先輩として尊敬し、個々の持っている能力や、知恵を引き出せるような支援を心掛けている。本人の得意な事(縫い物、調理など)活かす機会を活動の中で持てるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた際には日々の生活の様子をお伝えしたり、月1回のお便りを発行する事で情報の共有を図っている。また、面会に来やすいように明るく開かれた雰囲気を作るように努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	友人、知人の方の面会や電話連絡を取りあったり、馴染みの場所に出掛けたりすることで気分転換に繋げている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の意思を尊重しレクリエーションや一緒に出掛ける機会を設けたり利用者様同士の関わり合いを多く持てるようにしている。また、トラブルになりやすい入居者の方等の場合には席を替えたり職員が間に入るなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで利用終了の方はこれまで2名おらず長期入院になった方であった。お見舞いやその後の様子をお聞きしたりしながら、葬儀やお悔やみなどにも伺った。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言葉や表情から、それぞれの思いや希望等を把握するように努めている。そうした情報を職員同士で共有し本人の状況把握に努めている。	利用開始面接時に本人及び家族から、これまでの暮らしや、身体面、精神面についての状況を詳細に聴取するとともに、本人や家族の意向を聞いている。利用開始後は日々の関わりの中で、会話や、表情、しぐさなどから思いや意向を汲み取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接及び入居時に本人や家族に聞き取りを行い、これまでの生活の様子や環境等について把握するように努めている。今後も、本人や家族からの情報を得て把握に努めていきたい。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握すると共に、表情や体調、心身状況を観察し、日によっての変化も見極めて現状把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の関わりの中で感じた事、気付いた事をユニット会議の中で意見交換している。また事前にご本人や家族の要望をお聞きし、問題点や意見を反映した介護計画書作成に心掛けている。	日々の係わりの中から感じたこと、気付いたことをノートに記載し、取り組むべき課題とケアのあり方について、ケアカンファレンスで意見を出し合っている。月1回のユニット会議でモニタリングを行い、出された課題や意見を反映し、現状に即した介護計画書を作成している。家族からは事前に要望を聴きているが、プランへ十分反映までには至っていない。	介護計画は、本人や家族が望んでいることを含めアセスメントから抽出された課題について関係者で話し合い、短期・長期の目標を設定し共有しながら実施し、モニタリングと評価を行いながら本人がより良く暮らすためのケアの在り方を示すものである。一連のプロセスが解り易いような書式についても検討されることを期待したい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録をし情報を共有しながらケアプランの見直しや評価をしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	d少しではあるが町内会活動への参加、ボランティア、小学校の行事参加等地域資源を把握、活用し利用者様自身が豊かな暮らしを楽しめるように支援している。今後、他の地域活動や行事などに積極的に参加して行きたい。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	サービス開始時に協力医療機関について説明したうえで、家族様が希望するかかりつけ医にしている。また、協力医療機関の訪問診療や医療機関への情報提供も行っており、適切な医療が受けられよう支援している。	かかりつけ医は本人や家族の希望により決定している。受診支援は家族または職員が対応しているが、往診の際は事業所に対応している。受診や往診の際は日ごろの様子を書面で伝え診察の参考にしてもらっている。受診結果は、記録に残すとともに、家族には電話やお便りで報告し情報を共有している。入院の際は職員が看護サマリーを記載し医療機関に提供している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	介護職員は日々の利用者様の状態把握を行っており、必要な情報は常に看護職員へ報告を行っている。また、状態の変化への対応について相談を行い、指示を仰いだ上で適切な対応を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの様子、入院に至るまでの経過について医療機関に情報提供を行うと共に、随時必要時に面会や電話連絡などで早期退院に向けての医療機関との連携をとっている。また、退院後の生活についても医療機関へ相談するなどし連携を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りと重度化した場合の指針について説明し同意を得ている。状態の変化があった場合や受診の必要性がある場合は随時家族へ連絡している。また、家族様の意向についても十分に考慮しそれに沿える形になるように努めている。	入所時に「重度化した場合の指針」及び「看取りに関する指針」を説明し同意を得ている。状態に変化があった場合は、その都度、家族・医師・関係者で話し合い、方針を確認し共有しながら対応している。これまで看取り事例はないが、将来的には家族の意向があれば沿えるようにしたい意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設に1台という形だがAEDも設置しており開設時に職員が使い方の講習を受けている。マニュアル等の整備も必要と感じているが十分とは言えず、職員全員で研修等を行うようにしていく。		
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を定期的実施している。また、町内会の方にも万が一の場合に協力していただけるように運営推進会議等をお願いしている。	避難訓練は同じ建物に併設の事業所と合同で1回実施した。年度内に夜間召集訓練を予定している。新年度から消防署との自動警報装置連動システムが導入される。管理者は町内からの協力の必要性を認識しており、今後、実行に移したい意向である。	有事の際は二階から内階段と外階段を使った避難になるため、そのノウハウを有している消防署に参加してもらい、実践的訓練を実施されるとともに、地域の協力体制についても取り組まれることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないように声掛け等に注意を払い対応している。	人生の先輩であることを意識しながら、個々の人格を尊重した言葉かけをしている。まず、名前で呼ぶことから始め、話をよく聞いて否定をしない。トイレの粗相に対しても恥ずかしくなるような言葉かけは絶対にしないなど、折に触れて接遇研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が苦手な利用者様には、こちらから分かりやすい言葉で声掛けして、常に希望や思いを汲み取る努力をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ本人のペースを大切に、その都度本人の希望を確認し、それに添える様に支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えやおしゃれは基本的には本人の意向で決めていただいているが、不十分なところがあれば本人のプライドに配慮しながら声掛け対応をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理等ができる方には、率先してお願いしています。食事の準備や片付けに関しても入居者様の体調や気分に合わせて一緒に行って頂いている。行事食や出前、外食などの機会も持つようになっている。	3食共ユニットそれぞれのキッチンで調理し、準備から調理、会食、後片付けまで、職員と一緒にいき、匂いや音を感じながら作って食べる楽しみを共有している。食材は宅配を利用しているが、自家菜園で収穫したものも味わっている。行事食や外食などアクセントを持たせた食事への機会も提供している。芋煮のような行事食、出前、おやつ作りなど変化のある食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残しチェックしている。牛乳、ゼリーでも水分が摂れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声がけを促し、必要な方には介助し清潔保持している。義歯は夕食後消毒している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンや習慣にあわせ、失敗がないように見守るなど自立に向けた支援を行っている。また、本人の排泄パターンを見極めてトイレ誘導を行い、失禁時は配慮しながら交換支援を行っている。	排泄状況を記録し、一人ひとりの排泄パターンに合わせ、声掛けや誘導を行っている。オムツ使用者であっても便座に座ってもらうケアを実施し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳を提供している。また水分補給も積極的に勧めている。体操等身体を動かす機会を作る。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>個々の要望に合せた時間で入浴し声掛をしながら気持ちよく、安全に入浴して頂いている。</p>	<p>個浴の檜風呂・機械浴、足湯とさまざまな形態のお風呂の設備を有している。本人の希望や、身体機能に合わせ最低でも週3回は入浴することができる。浴室と脱衣所は空調設備があり、天井からの暖房で快適に入浴でき、また、バスクリンやゆず湯などを取り入れ入浴を楽しむことができる。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>気温の変化に注意して対応している。日中でも休みたい時に、自由に部屋で休んで頂いている。</p>			
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬剤が見やすいように箱を工夫し、すべての職員が目を通し、薬剤表にチェックを行い、ミスが起こらないようにしている。投薬変更時は申し送りを文書に残している。</p>			
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>出来る方は食器拭きや、洗濯物干し・たたみ、調理の手伝いなどをしていただいている。日課として行っている方もおられるが、活動欲求の希望が少ない方もおられるので、その都度声掛けお願いしながら行っている。</p>			
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天候や、利用者様の希望に応じ、ドライブや買い物などに出掛け、利用者様の気分転換を図っている。今後、家族との外出等の行事なども企画していきたい。</p>	<p>花見、紅葉など遠出でドライブを楽しむこともあるが、近くの運動公園の銀杏並木の黄金色になった時期の散策も特筆できる。家族とは、帰宅時に墓参、法事、美容院などに付き添ってもらっている。中庭での畑作りやプランター花園の世話、お茶のみをして、日常的に外気に触れる機会を出来るだけ多く持つように努めている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人で所持できる方は、ご自分で所持していただき、所持が難しい方は、家族と相談し、持ってこない様になっている。必要な時は、施設で立替え、いつでも使える事を伝え安心して頂く。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があれば番号を聞き、あつていればスタッフがかけてから、つなぐ様になっています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、利用者様手作りの物を飾ったりしています。テーブル・イスの配置もスタッフで相談し、居心地よく過ごしてもらえるようにしています。各居室内には本人の使い慣れた物持ってきてもらうなどしている。	共用室は広いスペースを有し、ソファ、椅子、テレビが配置され利用者は自宅の延長のように、思い思いの場所で自由に過ごしている。ウオーターベッド2台が設置され、利用者の人気が高く、交替交替に利用している。壁には利用者が制作した作品や写真が飾られ、またお雛様が飾られて季節感を与えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファが置いてあり、自由に座ってくつろいでいただけるように支援している。気の合った方々同士でお互いの部屋に行き来したり、1Fに行ったりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでいただいている。衣装ケース、椅子、仏壇、家族の写真等飾っている。	事業所の備え付けの家具に加えて、自宅から使い慣れた、馴染みの調度品や写真などを持込み、今までと大差のない生活ができるように個別対応がされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋でも各自の部屋に洗濯物を干したり1Fへ行って、マッサージを行うなど職員が付き添いながら階段での移動なども行っている。引き戸にそれぞれ目印をつけたり、廊下、トイレ、浴室等手すりを設けたり、残存機能を活かし安全に生活していただけるようにしている。			